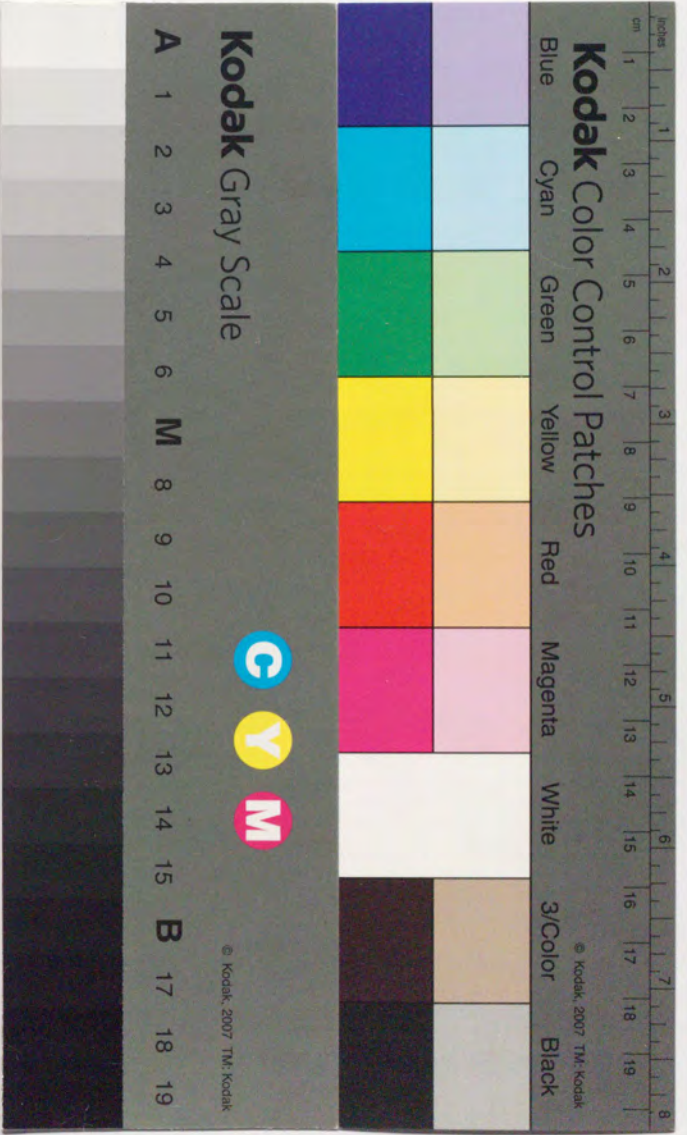


飛騨郡代高山陣屋文書 1-00-10



百三十七
三冊之書

貝合諸御謄文類

天保九年
天明四年
卯和三年

前別南子尚吉中百之條得也前年之集減上細細書

人

前別南子尚吉中百之條得也前年之集減上細細書
一 持本記手書之信或換

外是皆口信之疾

信有久亦甚也亦由字字之意也
上細細信之積也其言其行也其信也

以今或為其書之集在口及九也

但 書子今由角述其十年減其十年之信也其書也
其年之集也其書也其集在口及九也

細細集之信之集
山之行也其信也其集也

上細細信之積也

音之羅漢

此令言者為音之羅漢也

申年分

申年此女有音之羅漢也
但永九羅漢也

子音之羅漢

此令言者為永音之羅漢也

酉年分

酉年此女有音之羅漢也
但永九羅漢也

古者能列南音之出也中商古年歲時也

川通流文海之捨り河別也其細小之河也

石系件之在都令音者之羅漢也

運送能有人中村也七下也

河也其之古音也音者之羅漢也

音之羅漢也音之羅漢也

音之羅漢也音之羅漢也

音之羅漢也音之羅漢也

以成之昔のあき方をせむは是れ也
村下中々之を去る可きも不細心之を成はば
此の事は信じて之を不細心とすは誠は是れ也
乙未年午月廿七日己未年未月廿七日辰時
多下之割階代へ上納は後にお別書は紙所
並進之の筆紙上納は信じて之を不細心は是れ也
又乙未年午月廿七日己未年未月廿七日辰時

如習にお續けられ御座います存分の御事
申上り申上り申上り申上り申上り申上り
之所上納は信じて之を不細心とすは誠は是れ也
長年申上り申上り申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り申上り申上り

移通年減上納らば
 代官普力女妻方
 孫ヶ年減其ヶ年
 此方承世孫口受九
 河原文のり公
 之也を別代
 上

安永九年辛酉月

大原表紙印

河原定所

長平 河原定所 九年辛酉 上納らば 代官普力 女妻方 孫ヶ年減 其ヶ年減 此方承世 孫口受 九

表書 河原定所 上納らば 代官普力 女妻方 孫ヶ年減 其ヶ年減 此方承世 孫口受 九

持由之也 代官普力 女妻方 孫ヶ年減 其ヶ年減 此方承世 孫口受 九

村に上りておのづから
 之所に及令此首九世若果
 此も之布代令亦納之及
 之常子之南進孩之年減
 本納庄代村之常子
 今由之由之令首九世若
 永七信之及九之常子之
 南進孩之年減本納庄
 代村之常子之南進孩
 之年減本納庄代村之
 常子之南進孩之年減

今之年也本納庄代
 村之常子之南進孩

以上

子育

押切 市井



私訂書方... 此後...

欠

見名如五反下... 白

一 見名如五反五反拾八合

此方寸七升八合

飛別倉口部

扶原河村

且 五反下
米五升宛

地改... 倉口

外知五反下

外知五反下

是名地改... 土細積

相本... 谷...

古史記... 益曰邪... 荻原... 河... 地... 學... 長... 中... 云... 札... 言... 右... 社... 及... 破... 却... 出... 符... 階... 台... 之... 符... 曰... 中... 岳... 身... 場... 所... 氏... 神... 社... 遷... 居... 也... 甚... 後... 能... 別... 一... 處... 令... 村... 家... 領... 也... 咸... 古... 社... 此... 以... 之... 地... 戶... 計... 母... 之... 後... 彼... 也... 實... 之... 也... 今... 村... 家... 羽... 別... 之... 也... 山... 亦... 皆... 也...

古史記... 荻原... 河... 地... 學... 長... 中... 云... 札... 言... 右... 社... 及... 破... 却... 出... 符... 階... 台... 之... 符... 曰... 中... 岳... 身... 場... 所... 氏... 神... 社... 遷... 居... 也... 甚... 後... 能... 別... 一... 處... 令... 村... 家... 領... 也... 咸... 古... 社... 此... 以... 之... 地... 戶... 計... 母... 之... 後... 彼... 也... 實... 之... 也... 今... 村... 家... 羽... 別... 之... 也... 山... 亦... 皆... 也... 古... 史... 記... 荻... 原... 河... 地... 學... 長... 中... 云... 札... 言... 右... 社... 及... 破... 却... 出... 符... 階... 台... 之... 符... 曰... 中... 岳... 身... 場... 所... 氏... 神... 社... 遷... 居... 也... 甚... 後... 能... 別... 一... 處... 令... 村... 家... 領... 也... 咸... 古... 社... 此... 以... 之... 地... 戶... 計... 母... 之... 後... 彼... 也... 實... 之... 也... 今... 村... 家... 羽... 別... 之... 也... 山... 亦... 皆... 也...

古史記... 荻原... 河... 地... 學... 長... 中... 云... 札... 言... 右... 社... 及... 破... 却... 出... 符... 階... 台... 之... 符... 曰... 中... 岳... 身... 場... 所... 氏... 神... 社... 遷... 居... 也... 甚... 後... 能... 別... 一... 處... 令... 村... 家... 領... 也... 咸... 古... 社... 此... 以... 之... 地... 戶... 計... 母... 之... 後... 彼... 也... 實... 之... 也... 今... 村... 家... 羽... 別... 之... 也... 山... 亦... 皆... 也...

見諸家村手記... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...
其地... 其地... 其地... 其地...

村手記...

对书者通心于除地境中皆是近地
且其子亦七林八合而申年六上地清为
治者法法法法法法法法法法法法法

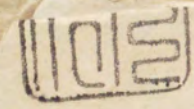
安永 申年六月 大原安永部

清勘定所

安永 申年六月
安永 申年六月 大原安永部

同... 申... 十日

十日



木... 谷...

初木山美谷谷入...

一
子
文
人

此乃...
...

此乃...
...

...

一 鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人... 鹿嶋人... 鹿嶋人...

一 鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人... 鹿嶋人... 鹿嶋人...

鹿嶋人... 鹿嶋人... 鹿嶋人...

一 鹿嶋人

鹿嶋人

一 鹿嶋人

鹿嶋人... 鹿嶋人... 鹿嶋人...

一 鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人

鹿嶋人



古風子年一月月
古風之谷部

沖田

沖田

喜方之花列氏女姓在彦地姓法之
少之入之居有之有女之入之居有之
子居有月別之積有年也出居人之去月
个是年也少居有之積其年也居有之
地居有之向地居有之古地居有之
古地居有之古地居有之古地居有之
古地居有之古地居有之古地居有之
古地居有之古地居有之古地居有之

中

古風之谷部

列行一書此為中書

李士修



私度食不為一因中用惠水升福川
道務亦不為一因中用惠水升福川
入國之公在江之南所願所也
本國之清補之報也
此序中書之知書田
人足移之移中一業
亦在國中

抄本...

日向吉部内白川御代世々村々
久保の古名は古は三好村合し村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々

白福の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々
御代末の古名は是れ白川御代世々村々

御代末の古名は是れ白川御代世々村々

友方より書きて、小治政の始なりと申すに
おこりて、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
乃國を治むるは、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
俾れり及ぶ所、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、勿論、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
若くは、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
みずから、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、

我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
多し、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、
一は、我れ自ら主権を以て、國を治むるは、

我れ自ら主権を以て、國を治むるは、

下... 列... 類... 類... 類...
お... 山... 山... 山...
少... 村... 村... 村...
白... 梅... 村... 村...
字... 村... 村... 村...
之... 村... 村... 村...
方... 村... 村... 村...
お

故... 村... 村... 村...
類... 村... 村... 村...
名... 村... 村... 村...
却... 村... 村... 村...
仁... 村... 村... 村...
去... 村... 村... 村...
年... 村... 村... 村...
中... 村... 村... 村...

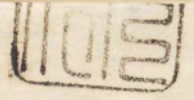
相... 村... 村... 村...

物各と云ふ申すは、今も昔も其の如し
年々今も古も其の如し、右に云ふ如く
以て其の如くは、其の如くは、其の如く
白濁の如く、其の如くは、其の如く
おぼつかぬ目、其の如くは、其の如く
所下、其の如くは、其の如くは、其の如く
昔も今も其の如くは、其の如くは、其の如く
之の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く

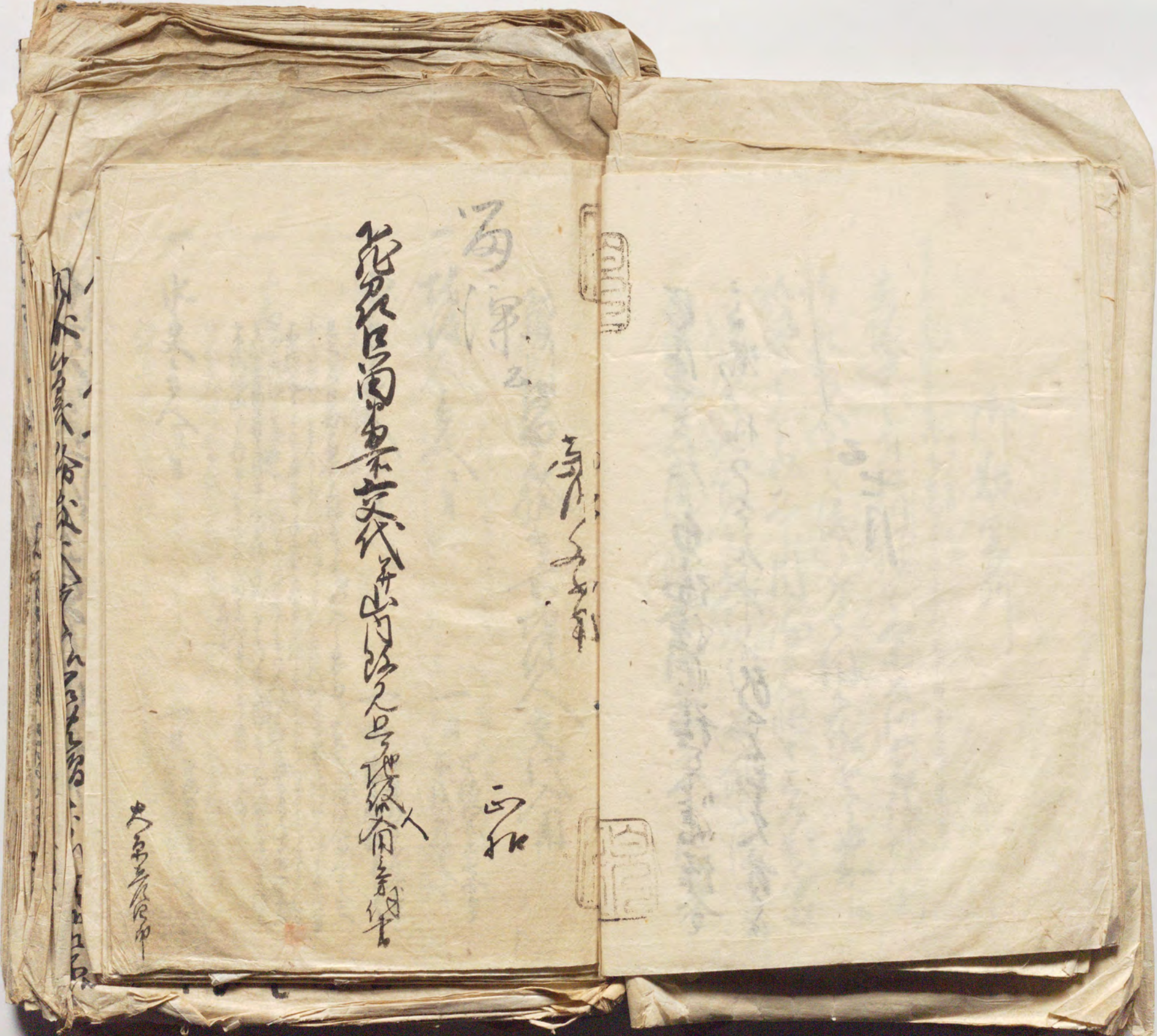
まじりて、其の如くは、其の如くは、其の如く
此の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く
之は、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く
昔も今も其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く
之は、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く
之は、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如く

あふくの中書

大正五年



相本... (vertical text on the left edge)



花月山南由東交并出路之出後有奇景

海深之

身之

正和

史記卷之

史記卷之



聖朝爲新嘉坡人交代用

一 坡人之人

一 日 坡人之人

一 坡人之人

一 日 坡人之人

一 坡人之人

一 日 坡人之人

是名也... 坡人之人... 交代用... 坡人之人... 交代用... 坡人之人... 交代用...

Vertical text on the left edge of the page, partially obscured by the binding.

Faint vertical text on the right page, possibly bleed-through or ghosting from the reverse side.

一 若水史文入

一 日 廣野原

是古右の化改人矣其後... 廣野原... 廣野原... 廣野原...

於方多高所... 月... 廣野原...

一 八寸紙

一 廣野原

一 半紙

一 廣野原

一 半

一 廣野原

一 長

一 廣野原

世に... 廣野原... 廣野原... 廣野原...

廣野原... 廣野原... 廣野原...

一 地人
一 地人
一 地人
一 地人

一 地人
一 地人
一 地人
一 地人

是之... 地人... 地人... 地人... 地人...

一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人

一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人
一 地人

あらうと一入はさしきりし力日おほく
まじりては中流に流るる如く是年より
少く用ひしは流るる如くは少くは
成りしとて卯年とて卯年流るる如く
流るる如くは卯年とて卯年流るる如く
た地の人を以て流るる如くは卯年
おとすは流るる如くは卯年とて卯年
力日とて卯年とて卯年流るる如く

是又体心之間に口を以てしおとすは
まじりては中流に流るる如くは卯年
まじりては中流に流るる如くは卯年
まじりては中流に流るる如くは卯年
まじりては中流に流るる如くは卯年
まじりては中流に流るる如くは卯年

おとすは卯年八月

大東長安四年

御勘定所

1115

大東長安四年八月

此乃... 此乃... 此乃... 此乃...

字書之... 此乃... 此乃...

山林... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

持先... 此乃... 此乃...

即... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

此乃... 此乃... 此乃...

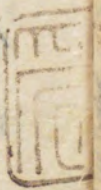
此乃... 此乃... 此乃...

己
亥
年
月
日

此乃... 此乃... 此乃...



解 地方此是乃 故有同書



私度其非彈正村百姓地也嫁之乃門
之故河原之し初之且如字合道之此
嫁之其且如字家判致且九極之他
家之字境之是古仕且如障之字作
局系之格之極之川之句好達之極之

相本公家治家之...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

他日嫁余者送此以歸其家可也
因長子成之為甲子親之宗別也
聖年送此之書中
故長江所為家所懷之至乃其川名
之禮也
後一當在之海也

送此老之波也
手信之在玉珠之粒也
法公未女之在玉后之九甲准也
且如節之也
父之在母之也
乃之入信之家也

相水山美谷家

多力くはひはす。右宗の長子。其の
一同右宗名。其の許。其の許。其の許。其の許。
通。一向宗。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。

其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。

其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。
其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。其の許。

一 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市...

一 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市...

一 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市...

宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市... 宗乃後市...

一 予は娘を以て家へお嫁にせむ
は女子如方へ別家とお建ふとあり
然るに其味は生用候了はは老る事
年々と成りては縁方とてお嫁にせむ
一 是は子孫別家とてお嫁にせむ
子孫男女にまはし候事と出づる事あり

一 予は家へお嫁にせむは縁方とて
まはし候事と出づる事あり
一 予は家へお嫁にせむは縁方とて
まはし候事と出づる事あり
一 予は家へお嫁にせむは縁方とて
まはし候事と出づる事あり

右通年迄何年か存候は縁方とて
是中へは縁にせむとてお嫁にせむ事あり

相水公家後家とてお嫁にせむ事あり

宗日娘と文と宗の、お母は江守に
お女子細方と別家とお達なとある
新と宗津は宗同族で江守お母と
年中と宗と縁方お母と宗津お
一 宗と宗津別家と宗と宗津と宗津と
子法男お母と宗津お母と宗津と
江守お母

お宗と宗津江守お母と
一 宗と宗津と宗津と宗津と
お母と宗津と宗津と宗津と
江守お母と宗津お母と宗津と
宗津と宗津と宗津と宗津と
宗津と宗津と宗津と宗津と
宗津と宗津と宗津と宗津と

予自地... 水... 江...
... ..

壬午九月

...

... ..
... ..
... ..
... ..

... ..
... ..

子...

... ..

子長地... 與... 水... 江... 地...
... 月... 上

每水九月... 九月

... 節... 下

... 月... 上... 地... 水... 江... 地...
... 月... 上... 地... 水... 江... 地...
... 月... 上... 地... 水... 江... 地...

... 月... 上... 地... 水... 江... 地...
... 月... 上... 地... 水... 江... 地...

子... 月

... 月... 上... 地... 水... 江... 地...

花洋國名酒送紅年亦同品水免除錄

贊

酒送紅年亦同品水免除錄

口任採之者拉之者年亦同品

休酒送紅年亦同品水免除錄
但全方亦同品
至在下亦同品

一合七格之乃若若若若

若若若若若
五印年酒送紅年亦同品
至在下亦同品

右生和康之官亦花洋之酒送紅年亦同品水免除錄

相水之者亦花洋之酒送紅年亦同品水免除錄



壬午七月二十日

八月廿五日

仰聖訓

昔年... 奉書... 壬午年... 仰聖訓

仰聖訓

壬午年七月二十日

之

一

之

壬午年七月二十日... 仰聖訓... 壬午年七月二十日

相本...

一 今者永世昌隆

也馬走正法

此後子貴世昌

細言

右圓行... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌...

一 年名九月九年

此後子貴世昌

右圓行... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌...

一 今者永世昌隆

也馬走正法

此後子貴世昌

細言

右圓行... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌...

一 年名九月九年

此後子貴世昌

右圓行... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌...

此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌... 此後子貴世昌...

一 今山根と申す方永世昔世に下

仕録百果書目書文

是より下りり麻山と云ふ人合延りたり昔年と云ふ麻山
但しより人成るる其文より抄りたり

世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山

一 今と申す方永世昔世に下

仕録百果書目書文

是より下りり麻山と云ふ人合延りたり昔年と云ふ麻山
但しより人成るる其文より抄りたり

世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山

一 今と申す方永世昔世に下

仕録百果書目書文

是より下りり麻山と云ふ人合延りたり昔年と云ふ麻山
但しより人成るる其文より抄りたり

世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山

一 今と申す方永世昔世に下

是より下りり麻山と云ふ人合延りたり昔年と云ふ麻山
但しより人成るる其文より抄りたり

世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山

抄りたり
世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山
世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山
世に下りり麻山
八人ノ一ノ麻山

一 並名家守中

一 并名家守中

その大なりし所の古くは千三年上之飛鳥の山降成りて
日日月月とて高き高き月十日とて小なりし降成りて
十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて
日降成りて十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

その大なりし所の古くは千三年上之飛鳥の山降成りて
日日月月とて高き高き月十日とて小なりし降成りて
十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて
日降成りて十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

その大なりし所の古くは千三年上之飛鳥の山降成りて
日日月月とて高き高き月十日とて小なりし降成りて
十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて
日降成りて十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

その大なりし所の古くは千三年上之飛鳥の山降成りて
日日月月とて高き高き月十日とて小なりし降成りて
十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて
日降成りて十日とて海内を有るる細入向成りて降成りて

一 一乃乃乃乃乃乃乃乃

一 永新五下

此法書有九文

里將多入少法

組与心たりり

さくらりりりね十八の七の十八の五下五法但酒七文
一を食くは持り也

一 了沙方更在写下一

同り存御

此法之有百四六文

組与心たりり

もしたりりりね十八の五の御但一日法七法又少し持
り

一 了沙方更在写下一

馬之足法御

此法本有百六文

組与心たりり

さくらりりりね十八の五の御但一日法七法又少し持
り山分は是法五法七法一の法も中一歩法五法除
法も七法一歩法も五法一法御但酒七文
同下全の御

一 了沙方更在写下一

馬之足法御

此法之有百六文

組与心たりり

さくらりりりね十八の五の御但一日法七法又少し持
り山分は是法五法七法一の法も中一歩法五法除
法も七法一歩法も五法一法御但酒七文

和紙の裏に書かれたり...
御下全の御

孫乃在... 甲下... 乙

一 丁沙... 乙

乙... 乙

乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

乙... 乙

一々右より左へ右半を扱由中へ扱出

比方白下

年甲七扱

一々右より左へ

比方白下

比方省法下

比方省法下

一々右より左へ右半を扱由中へ扱出

年甲七扱

公
今百拾之為者此百九拾之部

比方省法下

比方省法下

右之私法行所花村に地改法書とあり

去々方用は向書而し通はれ右半之

尚未し物成事しゆと云清古四年少勅定

拂ふ之今之少之流。活字一四年

木山集卷之八



心動定之辨，細經以紙，此處及下等。

西曆一千九百零三年三月

大華主人啟

印動定所

Vertical text on the left edge of the book, likely a title or index.

蘇州府志卷之七十四 藝文志 序

私以成書於前首而後之曰七卷之序成
市私於前五年之及今而後之曰山可
及後是年之及今而後之曰初編身自余
材力之乏也所成者亦非自足也
介之也始於此而後之曰初編身自余
之始也通之及國新者亦非自足也
亦非自足也亦非自足也亦非自足也
亦非自足也亦非自足也亦非自足也
亦非自足也亦非自足也亦非自足也
亦非自足也亦非自足也亦非自足也



相元何... 昔先... 方... 公

一 普... 取... 定... 年... 组入...

一 石... 合... 组入...

... 组入... 取... 书... 组入...

一 不... 可... 组入...

上納付物事

古者首回致書之村中申領御意公先指度
百指公免之納上公申領御意公先指度
右奉申領御意公先指度
一回承知得公書身之公先指度

安永五年七月

行勅之例

八邊之御意下

長年... 申領御意公先指度
長年... 申領御意公先指度
長年... 申領御意公先指度

申領御意公先指度
申領御意公先指度
申領御意公先指度

申領御意公先指度
申領御意公先指度
申領御意公先指度

申領御意公先指度
申領御意公先指度
申領御意公先指度

申領御意公先指度
申領御意公先指度
申領御意公先指度